

家畜衛生 いずも

H26年度 No.2

2014. 9月



島根県東部農林振興センター出雲家畜衛生部(出雲家畜保健衛生所)

〒699-0822 出雲市神西沖町 918-4 TEL(0853)43-7900 FAX(0853)43-2801

★近隣諸国での高病原性鳥インフルの発生が止まらない！！

初動対応を主とした防疫演習を開催

従来、鳥インフルエンザは12～3月の冬期が好発時期であるとの認識が強かったのですが、国内では4月に熊本県、近隣海外では4から7月にベトナム、中国、台湾、韓国など、さらに、8月に入ってからベトナムと中国での発生が報告され、もはや季節に関係なく発生するといっても過言ではありません。

	① インド	② ネパール	③ バングラデシュ	④ ミャンマー	⑤ タイ	⑥ ラオス	⑦ カンボジア	⑧ ベトナム	⑨ マレーシア	⑩ 中国	⑪ 香港	⑫ 台湾	⑬ 韓国	⑭ モンゴル	⑮ 日本	⑯ ブータン	⑰ ロシア	⑱ スリランカ	⑳ 北朝鮮	
1月	▲																			
2月	●																			
3月																				
4月																				
5月																				
6月																				
7月																				
8月																				

家きん● 野鳥▲

(赤:高病原性鳥インフルエンザ、青:低病原性鳥インフルエンザ)

このような状況下、東部農林振興センターは、従来10から11月に行っていた鳥インフルエンザ防疫演習を8月27日(木)に宍道町の中央家畜市場で開催しました。

演習内容は、主に発生時の初動対応の手順を確認する内容で、各班・係が防疫資材を搬出するところから始まり、それぞれの作業場の設営後、最初の動員者の迎え入れるといった一連の流れを訓練しました。

本演習により、初動対応について、より理解が深まるとともに、今後の検討課題も見つけやすい有意義な演習となりました。



【集合場所:動員者への健康調査、資材配布】



【鶏舎内作業】

(前原)

★インターンシップを実施しました！

県では、獣医系大学生を対象に公務員獣医師が働いている職場のインターンシップを実施しています。

獣医学生は月から金曜までの5日間で家畜保健衛生所、家畜病性鑑定室、畜産技術センター、保健所、保健環境科学研究所、食肉衛生検査所と多岐に渡る職場を体験します。

この研修の目的は、多くの学生に公務員獣医師に興味をもってもらい、公務員獣医師を進路選択の一つに加えてもらうことです。

今年度も当所には、全国各地の獣医系大学の2年生から5年生までの6名が来所され、管内の畜産農家で大学では経験出来ない、肥育牛・繁殖牛の飼養管理、採血・超音波診断装置を用いた妊娠鑑定などを実際に体験し、産業動物分野、公務員獣医師に興味を抱いてもらえたと思います。

(高橋)



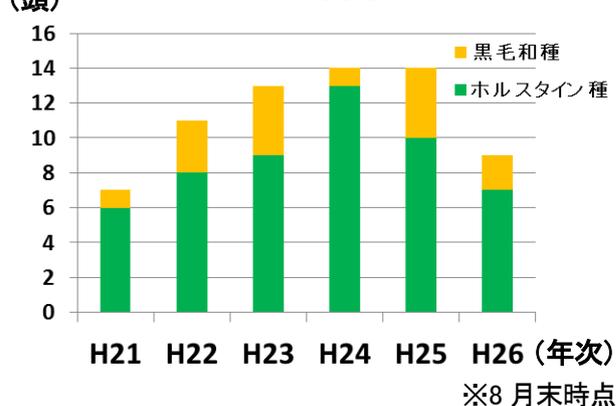
★家畜の医学 ～第2回 牛白血病～

牛白血病は白血球が腫瘍化する病気で、体表のリンパ節の腫大や、直腸検査で腹腔内の腫大したリンパ節に触れることで発見されます。見た目に異常がなくても、と畜場の検査で見つかることも少なくはありません。と畜場で見つかるとう全廃棄になり家畜共済の対象とならないため、特に肥育農家の経済的損失は大きいです。

主な原因は、牛白血病ウイルス感染です。感染しても発症する牛は数%程度ですが、発症すると治療法はありません。ワクチンもまだ開発段階です。

※人に感染することはありません

(頭) 県内における年間発生頭数



血液や乳汁を介して感染が広まるため、対策として

①母子感染防止(母子分離・人工哺乳など)、②同居牛への感染防止(ア7・サシバエ対策など)

子牛の時に感染すると発症するリスクが高まるため、酪農家と繁殖農家での対策が大切です！

全国的に発生頭数は年々増加しており、平成25年は2310頭(うち鳥根県は14頭)でした。感染牛と知らずに導入し、気づいた時には子牛や他の牛も感染していたなんてことにならないように、導入牛の抗体検査(1頭720円)をしませんか？また、当所では放牧検査でも抗体検査をしています。ご希望の方は当所までご連絡下さい。

(尾崎)

★第11回全国和牛能力共進会への取り組み

開催テーマ「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」

第11回全国和牛能力共進会最終比較審査が平成29年9月7日(木)から9月11日(月)にかけて種畜の部は宮城県仙台市の夢メッセみやぎ、肉用牛の部は仙台市中央卸売市場食肉市場で開催されます。

当家保では、県の新技術活用優良素牛供給支援事業を活用し性選別精液及び受精卵移植による7区・8区の「肉牛の部」出品牛の生産に協力しています。管内では、雲南市、奥出雲町、出雲地域、斐川町の各出品対策協議会がこの事業に取り組まれており、11月中旬の採卵期間終了までに12頭(7区7頭、8区5頭)の採卵と12月限定で132頭の移植を予定しています。

9月10日現在、採卵を予定している12頭のうち、8頭については採卵が終わり、4頭については今後分娩を待つて実施する予定です。

また、受精卵移植産子の哺育育成、早期肥育技術を習得するため、昨年度移植を実施し、この秋生産される子牛について東部農林振興センター雲南・出雲農業普及部、農業技術センター、畜産技術センター及び当家保のスタッフがスクラムを組み支援態勢を固め分娩を待ち受けているところです。(早期肥育技術確立支援事業) (矢田)

★家畜の伝染病発生時の情報提供について

昨年から今春にかけて、豚流行性下痢(PED)が全国的に流行し、今年4月には熊本県で鳥インフルエンザが発生しました。また管内では今春、牛RSウイルス病が散発する等、家畜の病気の発生が続いています。そこで当所では、伝染性の強い家畜の病気が管内で発生した場合、家畜飼養者の皆様に迅速にお知らせする一つの方法として、以下のような携帯ショートメール(SMS)を利用した情報提供を考えています。✉



- ① 飼養者様の携帯番号を教えてください。
- ② 管内で家畜の伝染病が発生したとき、お聞きした番号あてに当所からショートメールを送信します。



ご協力いただける方は、当所にご連絡いただき、携帯電話番号をお伝えください。

また、近隣海外の家畜伝染病発生情報について、現在、牛については100頭以上、豚については50頭以上、鶏については1,000羽以上飼養されている方を対象にFAXをお送りしていますが、今後は対象農場以外の方でもご希望があればお送りいたしますので、当所までご連絡ください。

すばやい情報提供により、より充実した家畜防疫を目指して参りますのでよろしくお願いいたします。(廣江)

